

秋が深まり、心や体が穏やかに落ち着きを取り戻す時期になってきました。行事が満載の、忙しい秋をすごしている皆さんが一息つけるように、図書館でたくさんのお本を用意してお待ちしています。

2025読書週間 10月27日～11月9日



終戦まもない1947年（昭和22）年、まだ戦いの傷痕が至るところに残っているなかで「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、出版社・取次会社・書店と公共図書館、そして新聞・放送のマスコミ機関も加わって、第1回『読書週間』が開催されました。そのときの反響はすばらしく、翌年の第2回からは期間も10月27日～11月9日（文化の日を中心にした2週間）と定められ、この運動は全国に広がっていききました。

そして『読書週間』は、日本の国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民の国」になりました。いま、電子メディアの発達によって、世界の情報伝達の流れは、大きく変容しようとしています。しかし、その使い手が人間であるかぎり、その本体の人間性を育て、かたづけると、「本」が重要な役割を果たすことは変わりありません。暮らしのスタイルに、人生設計のなかに、新しい感覚での「本とのつきあい方」をとりいれていきませんか。

『読書週間』が始まる10月27日が、「文字・活字文化の日」に制定されました。よりいっそうの盛りあがり、期待いたします。

図書委員会活動報告

1年生の図書委員14名で本に添えるPOPの制作と展示を行いました。POPとは書店の販売促進用の紹介広告コンテンツです。「point of purchase」の略ですが、難しい理屈は抜きにしてポップコーンの「ポップ」つまりは本の中身が「はじけること、飛び出ること」をイメージして楽しみながら制作しました。今年度の1年生図書委員は、はじけるような活発さに溢れているので、それぞれが自分らしい思い思いのPOPを完成させてくれました。



POPを本屋さんで何気なく見る機会はありませんが、いざ自分で作ってみると目を引くようなイラストやキャッチコピーがなかなか思いつかないのではないかと気が負ってしまいました。

制作を始めてみると本の中にたくさんのヒントがあることに気が付き、1年生の図書委員同士で楽しみながら仕上げることができました。本と展示してありますので見に来て本も読んでみてください。

16HR 丸井章吾

最新メディアミックス

この秋、話題の映画の原作本を紹介します。どの作品も若手人気俳優が演じるノアール系小説の主人公によって、小説の世界観をリアルに映像化しています。ノアール小説（ノワール小説、暗黒小説とも）は、フランス語の noir（黒）に由来し、犯罪や暗黒街をテーマにした文学作品の形式です。ノアール小説を読む意味は、犯罪や暗黒街を題材に、道徳的に曖昧な登場人物や破滅的な運命を通して、社会の暗部や人間の本質を深く考察できる点にあると思います。



『恋に至る病』斜線堂有紀著

日本中を震撼させる自殺教唆ゲーム『青い蝶』。その主催者は誰からも好かれる女子高生・寄河景。善良だったはずの彼女がいかにして姿を変えたのでしょうか。「世界が君を赦さなくても、僕だけは味方だから」そう語るのは幼馴染の宮領です。彼への景の気持ちは本物か、それすら遠大な計画の一部なのでしょうか。それは読者の判断に委ねられているのかもしれない。



『火喰鳥を、喰う』原浩著

信州で暮らす久喜雄司に起きた二つの出来事。ひとつは久喜家代々の墓石が、何者かによって破壊されたこと。もうひとつは、死者の日記が届いたことだった。久喜家に届けられた日記は、太平洋戦争末期に戦死した雄司の大伯父・久喜貞市の遺品で、そこには異様なほどの生への執着が記されていた。そして日記が届いた日を境に、久喜家の周辺では不可解な出来事が起こり始める。



『愚か者の身分』西尾潤著

戸籍ビジネスに関わり、堕ちていく若者達のオムニバス5編から連なる一冊です。一体、この日本でどんな人が戸籍を欲しがると、普段考えもしないような世界が広がります。新しい身分を手にした者、手放した者、仲介した者。その負の連鎖は、苦しく切なく残酷で、目をそむけたくなるかもしれません。著者は若い世代の女性作家で第一章は大藪晴彦新人賞受賞作です。



『盤上の向日葵』柚木裕子著

さいたま市天木山山中で発見された白骨死体。唯一残された手がかりは初代菊水月作の名駒のみ。それから4ヶ月、叩き上げ刑事・石破と、かつて将棋を志した若手刑事・佐野は真冬の天童市に降り立つ。向かう先は、世紀の一戦が行われようとしている竜昇戦会場。果たしてその先で二人が目撃したものとは何だったのでしょうか。



Trick or Book!

10月31日に子どもたちが「Trick or Treat!」と家々を回る、ハロウィンのイベントにちなんで「Trick or Bookコーナー」を設けてみました！黒猫が表紙にデザインされている本や、魔女が題名となっている本を集めてあります。

『猫のパジャマ』

レイ・ブラッドベリ著

男が車を走らせていると、カルフォルニアの高速道路に仔猫がいました。助けて飼おうと降りますが、向こうからも車が来て女性が降りてきます。猫をめぐる不思議なラブストーリー。レイ・ブラッドベリ作品に触れてみる機会にしてください。



『サラと魔女とハーブの庭』

七月隆文著

家でも学校でも居心地の悪さを感じていた由花は、家族のもとを離れ、田舎で薬草店を営むおばあちゃんと暮らす決心をします。森の中に佇む古い家が落ち着いたお洒落なお店、自分のために作られた手作りの部屋。おばあちゃんとの田舎暮らしは、由花の心を魔法のように満たしていきます。



『黒猫が海賊船にのるまで』

古市卓也著

現実と人形劇の中の話が交錯するファンタジー溢れる物語。海賊船「黄金の西風号」の船長は、波止場のそばにある酒場で見知らぬ黒ネコに声をかけられます。黒猫を乗せた海賊船は、どんな冒険をも楽しんで終わりなき航海をしていきます。黒猫が海賊船に乗った理由を、読みながら楽しんでみてください。



『魔女たちのアフタヌーンティー』

内山純著

“魔女”が住むと噂される白金台の大きな屋敷。黒い服に身を包む女主人のお茶会に、仕事も恋も上手くいかず、鬱々していた真希はひょんなことから訪れます。お茶の奥深さを知り、様々な年代のゲストの悩みを聞くうちに自分自身に向き合っていくようになります。



手紙～拝啓、十五の君へ～

2008年にシンガーソングライターのアングエラ・アキさんがリリースした『手紙～拝啓、銃後の君へ～』が、最近またCM曲としてクローズアップされています。15歳の「僕」が抱えている悩みを、未来の自分に宛てて「手紙」に書き、今を生きていくための道標を探る歌詞となっています。

「一人は好き、孤独は嫌い。」というCMのキャッチコピーは、SNSやリモートワークの普及により孤独や不安を感じやすくなった2025年の今の若者世代にも、深く響くのではないのでしょうか。

17年前、皆さんが生まれたときに旧三ヶ日高校（2016年3月浜松湖北高校に合併統合）の学級文庫で読まれていた本が、図書館に数冊ありますので気になる方は読んでみてください。



『拝啓十五の君へ』

NHK全国音楽コンクール制作班著「手紙」という一つの歌から何が起きたのか？アングエラ・アキと中学生との、1年間におよぶ交流の一部始終の記録です。番組のホームページに寄せられた、未来の自分への手紙も収録されています。

後期図書委員会について

先日、後期図書委員会が行われ後期の活動について話し合いました。後期図書委員長には23HR 池谷啓太君が選ばれました。後期の予定はビブリオバトルの開催・読書スタンプラリー・放送読書・図書整備などとなります。皆さんが読書を楽しめるように計画していますので、興味を持って参加してください。よろしくお祈りいたします



読書スタンプラリー開催

2年生を中心に読書スタンプラリーを開催します。期間は11月17日～12月19日です。先生のお薦め本を1冊読むと1ポイントで10ポイントでゴールとなります。参加希望者は当番の図書委員に申し出てください。先生のお薦め本は生徒の皆さんに高校時代に読んでほしい本ばかりです。ゴールした方には、特製の本のしおりをご用意します。

- ・期間 11月17日(月)から12月19日(金)
- ・1冊1ポイント 10冊でGOAL